

春の叙勲 褒章

春の叙勲と褒章の受章者がそれぞれ発表され、市内では次の皆さんが受章されました(了承を得た人のみ掲載しています)。

瑞宝単光章
【鉄道業務功労】
安保 三之助さん
(村崎野・84歳)



昭和19年から旧国鉄に勤め始め、以後バスから機関車、列車に変わっていく中で技工士、運転士のほか車掌や駅長を各地で務めました。

昭和45年の岩手国体が開催される前年に、北上駅の助役に赴任したことが思い出深いと話し「乗客の安全第一でやってきました。41年間事故無く勤めることができたことがよかったです。小さなことをこつこつ積み重ねてきたことへのご褒美と思っている。転勤の多い生活を支えてくれた家族に感謝している」と笑顔で喜びを語っていました。

旭日双光章
【地方自治功労】
多田 司さん
(黒岩・81歳)



合併前の旧北上市から市議会議員を4期17年務め、市勢の発展に寄与しました。任期中は、北上川に特定の団体が漁業権を設定することに反対してきたほか、地域と議会の橋渡しとして、長年にわたり課題解決に取り組みました。

受章について「身に余る光栄で、喜びをかみしめています。地元の皆さまや家族のおかげで長年活動を続けていくことができました。今後の北上市が発展するよう、若い人が頑張っていくことを期待しています」と話していました。

瑞宝単光章
【消防功労】
高橋 武司さん
(和賀町長沼・80歳)



昭和30年の旧和賀村消防団入団から、副団長として退団するまでの34年間にわたり、消防団員として地域における災害への対応や防災活動に尽力しました。

「仕事があっても、災害があれば対応しなければならなかった。思い出深いのは長沼で起きた火事で、消火作業に一晚立ち会い翌日までかかったことがあった。消防活動のなかで人間が成長できたと思っている。受章は、ただただ嬉しい」と喜びを語ります。団員仲間との研修が楽しく、後輩に「仕事をしながらの活動は大変だが、頑張ってもらいたい」と励ましの言葉を送っていました。

瑞宝単光章
【児童福祉功労】
大泉 智恵子さん
(口内町・62歳)



県外の障がい児施設と花巻市にある児童養護施設「清光学園」に長年にわたって勤め、一貫して児童の福祉向上に尽力しました。

「子どもへの対応はマニュアルが無く、驚きと発見の毎日の中で、悩みながら向き合ってきました。子ども達をありのままに受け入れるだけで、同僚の手助けがあってこれまで勤めることができました」と感謝の気持ちを述べ、受章については「当たり前前に勤めてきただけで、戸惑いの方が大きいです」と語り、成長した子どもたちとの交流を今でも続けています。

藍綬褒章
【統計調査功績】
平野 正さん
(有田町・78歳)



昭和45年から旧北上市の統計調査員を務め、現在まで40年以上にわたり統計調査に尽力しました。

「始めたころは面接調査のみだったから皆が協力してくれて調査票も集まったが、個人情報保護法以後は調査するのが大変になってきた。全部回収を目指してきたが勤務形態が変わってきたこともあって、難しくなってきたように思う。調査票を手渡さなければいけなかったことで何度も足を運ばなければならなかった」とかつての苦勞を語り、「あまりに大きな褒美を頂戴し恐縮している」と話していました。

瑞宝単光章
【消防功勞】
高橋 義作さん
(和賀町山口・83歳)



旧和賀村消防団に昭和30年から入団し、34年にわたり消防団員として地域における災害への対応や防災活動にあたり、副団長としても団員の指導に尽力しました。

「仲間づくりのために加入したつもりだったが、大変なこともよりも励みなることのほうが多かった。地元であった火災で、全焼したが無事に救出できた子の成長を見ることができ、命に関わる仕事をしたと実感した」と振り返ります。「加入する人が減っていることが残念。得ることの方が多いため、若い人には積極的に参加してほしい」と話していました。

晴れの受章 おめでとうございます

危険業務従事者叙勲

瑞宝双光章
【消防功勞】
新田 健一さん
(稲瀬町・67歳)



昭和40年から41年余りにわたり消防職員として勤務し、地域住民の安全確保に努め、災害対応から地道な予防活動にも尽力しました。

「消防士としては昭和45年に市の中心部の製材所で起きた火災が思い出深い。救急の任務においては赤ん坊を3人取り上げたことが心に残っている。人の命に係わる仕事をし命の大切さを実感してきた。すべての消防関係者を代表していただくものと思っている。先輩や同僚、消防団のみなさんの支えで受賞できたと感謝している」と話していました。

瑞宝双光章
【海上保安功勞】
高橋 清記さん
(村崎野・65歳)



昭和42年から海上保安庁に勤務し、全国の海上保安署に長年にわたり勤務しました。

「警備や海難救助が主な業務でしたが、密航や密輸など国際的な犯罪の摘発に関わることもあり、そういったことが思い出深い」と話します。海上での安全のために、救命胴衣の着用の周知徹底にも地道に取り組んできました。

受章については「自分だけでなくスタッフ全員で頂いたものと思っている。職場の仲間との取り組みが評価された。本当にうれしい」と喜びを語っていました。